愛媛大学教育学部紀要　第58巻　145～149　2011

小学校教諭からみた子どものリーダーシップに関する研究

（保健体育研究室）　堺　賢治
（保健体育研究室）　藤原　誠
（NPO法人今治しまなみスポーツクラブ）　伊賀上　哲旭

A Study of Child Leadership Viewed by Elementary School Teachers

Kenji SAKAI, Makoto FUJIWARA *and* Tetsuaki IGAUE

（平成23年６月10日受理）

Ⅰ．序論

今日，子どもを取り巻く問題が多発している。子どもが成長していく過程で，重要な役割を担っていた地域共同体が崩壊し，核家族化や遊びの貧困化，異年齢の遊び集団の崩壊などが起こっている。子どもたちが社会性を学ぶ場と機会が減ったことで，コミュニケーション能力とリーダーシップ能力の低下が起こっている。学校現場では不登校やいじめ，学力や運動能力の低下など様々な問題が起こっており，年々深刻さを増している。また，学級経営においては，リーダー不在となり，クラスのまとめ役がいない，子ども同士でコミュニケーションが取れないなどの問題が起こっている。現在，リーダーシップ能力を育てるためにはリーダー経験を積むことが必要とされている[1)]。

先行研究では，遊び場面でのリーダー不在から，学校生活や学校経営に悪い影響を及ぼしており，リーダーシップ能力を高めるために，多人数で遊ぶ遊びを大人の手で作ることが必要になっている[2)]。また，学校生活場面でリーダーシップを発揮している子どもは，よく外遊びをし，遊び場面でリーダーシップを発揮し，スポーツクラブや体育の授業でもリーダーシップを発揮し，さらに，学校生活の満足度が高く，充実した学校生活を送っているといわれている[3)]。

しかし，リーダーシップが子どもの学校生活の満足度を高めるために重要なものにも関わらず，教師がリーダーシップについて，どのような考えを持っているかについては明らかになっていない。リーダーシップ能力を育成するためには，日々の指導が重要であり，その指導は目に見えにくいものである。

そこで本研究では，第一に，子どもたちのリーダーシップや学級経営における教師の考え方を明確にし，第二に，リーダーシップ能力の育成や子どもの教育問題を解決する方策について追求することを目的にした。

Ⅱ．方法

調査対象：愛媛県の小学校教諭　488名
調査期間：2010年11月
調査方法：質問紙による郵送調査
回 収 率：有効回収数　336名　　有効回収率　68.8％
分析の視点
　性別
　　男性（N＝122　　36.3％）
　　女性（N＝214　　63.7％）

Ⅲ．結果及び考察

１．年齢

表１は年齢についてあらわしたものである。「40歳代」の42.8％が最も多く，次いで，「50歳代」の28.0％であり，教師の高齢化が進んでいることがわかる。

性別で比較すると，男性は「40歳代」41.8％と「30歳代」26.2％が多いのに対し，女性は「40歳代」43.4％と「50歳代」32.7％が多く，女性の方が少し年上の傾向がみられる。

表１．教師の年齢　(%)

項　目	男性	女性	全体
20歳代	11.5	8.9	9.8
30歳代	26.2	14.5	18.8
40歳代	41.8	43.5	42.9
50歳代	19.7	32.7	28.0
無回答	0.8	0.5	0.6

$p<0.05$

２．リーダーシップ

(1) 子どもたちのリーダーシップ能力の現状

表２は教師の子ども時代と比べた今の子どもたちのリーダーシップの現状を示したものである。「高い」と「どちらかというと高い」を合計すると2.1％である。また，「低い」23.8％と「どちらかというと低い」52.1％を合計すると75.9％であり，今の子どものリーダーシップ能力の低さを指摘している。

性別で比較すると差はみられない。

表２．教師の子どもの時代と比べた子どもたちのリーダーシップ能力の現状　(%)

項　目	男性	女性	全体
高い	0.0	0.0	0.0
どちらかというと高い	2.5	1.9	2.1
どちらでもない	26.2	19.6	22.0
どちらかというと低い	45.9	55.6	52.1
低い	25.4	22.9	23.8

N.S.

(2) 子どもがリーダーシップを取っていると感じる場面

表３は子どもがリーダーシップを取っていると感じる場面についてたずねたものである。「遊ぶとき」が54.5％と最も多く，次いで，「クラスの活動」の37.2％，「運動会」の26.2％，「掃除」の19.6％，野外活動の14.0％，「スポーツ活動」の12.5％と続いている。

性別で比較して差のみられた項目は，「クラスの活動」の男性22.9％，女性41.6％である。その理由として，今の教師の子ども時代は，クラスの活動では男子が多くリーダーになっていた。そのため男子がリーダーシップを取っている場面を多くみているために，女子のリーダーシップ発揮の場面に気付いているのではあるまいか。

表３．子どもがリーダーシップをとっていると感じる場面　(%)

項　目	男性	女性	全体
遊ぶとき	54.1	54.7	54.5
クラスの活動	29.5	41.6	37.2
運動会	29.5	24.3	26.2
清掃	19.7	19.6	19.6
野外活動	16.4	12.6	14.0
スポーツ活動	16.4	10.3	12.5
体育の授業	7.4	9.8	8.9
クラブ活動	4.1	4.7	4.5
ボランティア活動	4.9	2.3	3.3
文化活動	1.6	2.3	2.1
リーダーシップをとっていない	0.0	1.4	0.9
その他	2.5	0.9	1.5
無回答	0.8	0.0	0.3

（２つまで○印）

(3) リーダーの男女比

表４はリーダーの男女比についてあらわしたものである。「男子が多い」1.8％と「どちらかというと男子が多い」11.9％を合計すると13.7％，「女子が多い」3.0％と「どちらかというと女子が多い」27.7％を合計すると31.7％であり，学校生活場面のリーダーシップは，男子より女子の方が高いことがわかる。また，２年前に子どもに行った調査[3]でも，リーダーシップ能力は，男子よりも女子の方が高いという結果がでており，教師も同じことを感じていることがわかる。

性別で比較するとあまり差はみられない。

表４．リーダーの男女比　(%)

項　目	男性	女性	全体
男子が多い	2.5	1.4	1.8
どちらかというと男子が多い	15.6	9.8	11.9
どちらでもない	49.1	58.8	55.3
どちらかというと女子が多い	30.3	26.2	27.7
女子が多い	2.5	3.3	3.0
無回答	0.0	0.5	0.3

N.S.

(4) スポーツ少年団のリーダーシップ

表５はスポーツ少年団加入者のリーダーシップについてあらわしたものである。「高い」1.8％と「どちらかと

いうと高い」25.0％を合計すると26.8％であり，あまりスポーツ少年団加入者のリーダーシップ能力は高いと思っていない。６年前の調査[4]でも，学校生活場面でのスポーツ少年団加入者のリーダーシップ能力は他の子どもと変わらないというデータがでており，同じ結果があらわれた。

性別で比較するとあまり差はみられない。

表５．スポーツ少年団加入者のリーダーシップについて

（%）

項　目	男性	女性	全体
高い	4.1	0.5	1.8
どちらかというと高い	27.9	23.4	25.0
どちらでもない	59.8	67.8	64.9
どちらかというと低い	6.6	6.5	6.5
低い	1.6	0.9	1.2
無回答	0.0	0.9	0.6

N.S.

３．学校生活

(1) 授業での人間関係能力やリーダーシップ能力の育成

表６は人間関係能力やリーダーシップ能力を高める授業を行っているかをたずねたものである。「行っている」9.1％と「どちらかというと行っている」52.1％を合計すると61.3％であり約６割の人が取り組んでいる。

性別で比較すると，「行っている」と回答した人は，男性12.3％，女性7.5％であり，やや男性の方がよく行っている傾向がみられる。

表６．人間関係能力，リーダーシップ能力を高められる授業を行っているか

（%）

項　目	男性	女	全体
している	12.3	7.5	9.2
どちらかというとしている	52.5	51.9	52.1
どちらでもない	29.5	27.1	28.0
どちらかというとしていない	4.1	9.3	7.4
していない	0.8	1.9	1.5
無回答	0.8	2.3	1.8

N.S.

(2) 授業外の人間関係能力やリーダーシップ能力の育成

表７は人間関係能力やリーダーシップ能力を授業以外で行ってるかをたずねたものである。「行っている」8.7％と「どちらかというと行っている」47.6％を合計すると55.6％であり，半数以上の人が取り組んでいることがわかる。

性別で比較すると，男性では，「行っている」10.7％と「どちらかというと行ってる」50.0％を合計すると60.7％であり，女性は，「行っている」6.5％と「どちらかというと行っている」46.3％を合計すると52.8％であり，授業の時と同じく，男性の方がより取り組んでいる傾向がみられる。

表７．人間関係能力，リーダーシップ能力を高められる授業を行っているか（授業以外）

（%）

項　目	男性	女性	全体
している	10.7	6.5	8.0
どちらかというとしている	50.0	46.3	47.6
どちらでもない	23.8	26.6	25.6
どちらかというとしていない	13.9	15.9	15.2
していない	0.0	3.3	2.1
無回答	1.6	1.4	1.5

N.S.

(3) 学校全体の取り組みの必要性

表８は学校全体での人間関係能力やリーダーシップ能力育成の取り組みの必要性についてたずねたものである。「感じている」41.1％と「どちらかというと感じている」49.7％を合計すると90.8％であり，ほとんどの人が取り組みの必要性を感じている。

性別で比較すると，「感じていると」回答した人は，男性45.1％，女性38.8％であり男性の方がやや取り組みの必要性を感じている傾向がみられる。

表８．学校全体での人間関係能力，リーダーシップ能力を高める取り組みの必要性を感じているか（%）

項　目	男性	女性	全体
感じている	45.1	38.8	41.1
どちらかというと感じている	45.1	52.4	49.7
どちらでもない	8.2	7.0	7.4
どちらかというと感じていない	0.8	0.9	0.9
感じていない	0.0	0.0	0.0
無回答	0.8	0.9	0.9

N.S.

４．教育問題

(1) 地域の問題

表９は地域との問題についてあらわしたものである。何らかの問題があると約７割の人が指摘している。その中でも，「地域の教育力の低下」と「地域の人間関係が希薄」は23.5％の人が指摘し，次いで，「地域からの苦情が多い」が12.2％と続いている。このような問題が起きている理由として，わが国では，地域共同体の崩壊後，ヨーロッパのようなコミュニティが作られていないことに起因する。その意味からも，コミュニティ形成の手段として有効な総合型地域スポーツクラブを作ることが緊急の課題である。

性別で比較するとあまり差はみられない。

表９．地域との問題　(%)

項　目	男性	女性	全体
地域の教育力の低下	21.3	24.8	23.5
地域の人間関係が希薄	21.3	24.8	23.5
地域からの苦情が多い	13.9	11.2	12.2
地域の行事に子どもが参加しない	4.9	2.8	3.6
地域が学校に協力的でない	0.8	0.5	0.6
騒音などの問題	0.0	0.9	0.6
その他	4.1	2.3	3.0
問題はない	33.7	26.6	29.2
無回答	0.0	6.1	3.9

N.S.

(2) 知育・徳育・体育の中で最も重要だと思うもの

表10は知育・徳育・体育の中で最も重要だと思うものについてたずねたものである。徳育の88.1％が最も多く，次いで，「知育」と「体育」の3.9％である。９割近くの人が徳育を重要視していることがわかる。３年前の調査[5]での保護者からの回答によると，「徳育」の48.1％が最も多く，次いで，「知育」の34.2％，「体育」の26.3％である。保護者も先生も徳育を重視し，特に，先生は徳育を非常に重視している。

性別で比較すると，「徳育」は，男性82.8％，女性91.1％であり，女性の方が徳育を重視する傾向がみられる。この理由として，女性は家庭教育を担当しているためにこのような結果が出たものと思われる。

表10. 知育, 徳育, 体育で最も必要だと思うもの　(%)

項　目	男性	女性	全体
徳　育	82.8	91.2	88.1
知　育	5.7	2.8	3.9
体　育	6.6	2.3	3.9
無回答	4.9	3.7	4.2

N.S.

(3) 現代の子どもの教育問題

表11は現在の子どもの教育問題についてあらわしたものである。「コミュニケーション能力の低下」の62.3％が最も多く，次いで，「規範を守れない子どもたちの増加」の52.4％，「家庭内の教育力の低下」の38.1％,「道徳性の低下」の28.0％,「問題解決能力の低下」の24.1％，「学力の低下」17.0％と続いている。これらの諸問題は，地域共同体の崩壊と子どもの異年齢集団の崩壊がもたらしたものであり，昔からあった地域の教育力の低下が起因したものと思われる。このような状況を改善する一つの方法として，総合型地域スポーツクラブの設立は有効な手段だと思われる。

また，３年前の調査[5]での保護者からの回答によると，「学力の低下」の32.4％が最も多く，次いで，「コミュニケーション能力の低下」の32.0％，「問題解決能力の低下」の30.9％，「道徳性の低下」の28.0％，「規範を守れない子どもたちの低下」の25.5％，「いじめの増加」の24.9％と続いている。保護者は学力の低下を最も重要視しているのに対し，教師はあまり重要視していない。また，教師が３番目にあげている「家庭内の教育力の低下」は，保護者からの回答では8.2％である。学校と地域が連携し，教育問題の解決を目指すことが必要であると思われる。

性別で比較すると，「コミュニケーション能力の低下」は，男性56.6％，女性65.9％，「問題解決能力の低下」は，男性13.1％，女性30.4％，「運動をしない子の増加」は，男性13.1％，女性1.9％である。この理由として，女性の多くは，男性がリーダーシップを取っていた時代に育っており，時代の変化に気がつきやすいために，コミュニケーション能力や問題解決能力の低下に気がついている人が多いのではなかろうか。一方，男性は運動部活動を経験している人が多いことから，運動をしない子の増加を指摘しているものと思われる。

表11. 現在の子どもの教育問題 (%)

項　目	男性	女性	全体
コミュニケーション能力の低下	56.6	65.9	62.5
規範を守れない子どもたちの増加	54.1	51.4	52.4
家庭内の教育力の低下	36.9	38.8	38.1
道徳性の低下	28.7	27.6	28.0
問題解決能力の低下	13.1	30.4	24.1
学力の低下	18.0	16.4	17.0
運動能力の低下	10.7	5.6	7.4
地域の教育力の低下	10.7	5.1	7.1
運動をしない子の増加	13.1	1.9	6.0
子どもたちの犯罪の増加	9.0	3.7	5.7
外で遊ばない子の増加	7.4	4.7	5.7
いじめの増加	3.3	5.1	4.5
子どもの学習時間の減少	1.6	3.7	3.0
リーダーシップ能力の低下	3.3	2.8	3.0
教員の指導力の低下	3.3	2.8	3.0
学級崩壊の増加	3.3	2.3	2.7

（３つまで○印）

Ⅳ．結論

(1) 教師の年齢層は，40歳代と50歳代で約７割を占め高齢化している。また，女性は40歳代と50歳代が多く，男性は40歳代と30歳代が多い。

(2) 子どものリーダーシップについて，教師の子どもの頃より非常に低下している現状がみられる。また，子どもがリーダーシップを取っていると感じる場面は，遊ぶときやクラブ活動，運動会である。リーダーの男女比は，男子より女子の方が高いと感じており，スポーツ少年団加入者のリーダーシップについては，高いと感じている人は約２割程度である。

(3) 学校全体で，子どもの人間関係能力やリーダーシップ能力を育成する必要性を感じている人が９割を占めているにも関わらず，実際に人間関係能力やリーダーシップ能力を高める実践を行っている教師は約半数である。

(4) 地域の問題として，地域共同体が崩壊したことから起因する地域の教育力の低下と地域の人間関係が希薄になることがあげられる。また，そのことが子どもの徳育の問題をも引き起こしている。さらに，子どもの教育問題として，コミュニケーション能力の低下や規範を守れない子どもたちの増加，家庭内の教育力の低下や道徳性の低下が指摘されている。

本研究をするにあたって，現地調査や資料収集等に協力をいただいた山内友佳嬢（伊予銀行）に深く感謝の意を表します。

参考文献

1）堺賢治 (2006)「総合型地域スポーツクラブの必要性」愛媛大学教育学部保健体育紀要　第５号　pp.41-45

2）堺賢治（2000)「子どもの遊び集団とリーダーシップに関する研究」 愛媛大学教育学部紀要　教育科学第46巻　第２号　pp.127-134

3）堺賢治・藤原誠・伊賀上哲旭（2010)「子どもの学校生活場面のリーダーシップに関する研究－遊びとスポーツクラブ，体育との関係－」 愛媛大学教育学部紀要　第57巻 pp.161-167

4）堺賢治・藤原誠・伊賀上哲旭・山本孔一（2007)「子どもの遊びとリーダーシップに関する研究－スポーツクラブと学校生活の関係を中心に－」 愛媛大学教育学部紀要　第54巻　pp.161-167

5）兵頭絵美（2009)「子どもの遊びとスポーツに関する研究－総合型地域スポーツクラブの場合－」 愛媛大学教育学部　保健体育科卒業研究